

# 出向く営農レポート

日進地域 苗生産農家編

地元で育った苗で  
野菜を作ろう!



日進地域担当  
吉田 萌

昨年、日進園芸センターで売り出したラグビーボール型のカボチャ「ロロン」などの苗は同じ日進地域で野菜苗を20年以上栽培する加藤信雄さんに依頼しています。加藤さんは春夏野菜だけでもトマトやナス、キュウリなど50品種以上の苗を出荷しています。



①

①今年の春夏野菜用に注文した40種類の種の確認作業を営農部職員と行いました。事前に依頼したロロンの種もあり、今年も加藤さんの苗を出荷予定です。

③「京みどり」というピーマンの苗です。双葉が出てこの大きさになると5cmポットに1回目の鉢上げを行います。



③

②発芽用のトレーにすじまきをする加藤さん。この日はトマトやスイカなど夏野菜の種まきを行いました。中でもおすすめのミニトマト「ココ」という品種は大粒で甘みが強いのが特徴で、3月上旬に種をまき4月末頃から苗の出荷が始まります。



②



④

④1回目の鉢上げ後は1トレーに60ポット入りますが、2回目の鉢上げを行うと1トレーに35ポットしか入らず「限られた場所で順序良く苗を作るにはとても頭を使う」と話していました。



⑤

⑤2回目の鉢上げ後の苗です。ここからもう少し成長させ、ようやく出荷です。

加藤さんは自分が出荷した苗の様子を確認するため、毎日朝と夕方に日進園芸センターを訪れています。出荷した後も水やりや苗の補充は欠かせない仕事だと話していました。皆さんも地元農家の苗で野菜作りにチャレンジしてみませんか。